

## 日米エアフォース友好協会設立趣意書

航空自衛隊が設立されてから四十余年、日米安全保障条約体制の下、在日米軍を中心とする米空軍と航空自衛隊とは密接に連携しわが国の空の守りの使命を果たしてきました。

その間近代的な航空部隊の建設と育成のため編成、装備、教育訓練、後方支援の全般にわたり米空軍から得た支援と協力は誠に大きいものがあります。そして現在も、新たな機能と役割を加え行動範囲を拡大しつつある航空自衛隊は、世界的な運用を常とし実践経験が豊富でかつ変化する戦略環境に迅速に対応しベターエアフォースを志向し続けている米空軍に学ぶべきことは多く、航空自衛隊将来の精強性は、両空軍の相互の信頼関係によって築き上げられていくといつても過言ではないであります。

勿論わが国の安全保障にとって強固な日米安全保障体制が以前にもまして重要であることは、昨年末に閣議決定された新しい防衛計画大綱が強調しているとおりであります。一方ではこの重要性とは裏腹に、冷戦終焉後の国際環境の変化や日米経済関係の変化によって、両国の安全保障関係が相対的に薄くなつた印象は否めず、日米安全保障条約を解消せよとする主張までがみられるようになりました。また、先の沖縄での不幸な事件が政府レベルでの米軍基地使用手続きを複雑にし、事件に対するわが国民の反応が在日米軍人と家族の士気に大きな影響を与えつつあることを認識せざるをえないのも事実であります。

こうした状況の中で、放置すれば疎遠になりかねない両国の関係を、空軍という共通の立場を活用して、わが国民が在日米軍将兵へのわが国における存在と活動に感謝していることを知らせ、彼らの日本駐留が真に意義あるものであることを実感させることによつて、より確かなものにしていく努力は重要な意義を持つと考えます。こうして航空自衛隊と米空軍との信頼関係を一層深め、現役の諸君が仕事をやり易い環境作りに寄与するとともに、わが国の安全と繁栄に不可欠な良好な日米関係の一端を支えていくことは極めて意義深い活動であります。

従つて、過去四十余年にわたり航空自衛隊の精強化に絶大な支援を与えてくれた米空軍に大きな恩義を感じており、今後とも日米両軍の強い紐帯がわが国の安全保障にとって不可欠であると信じる航空自衛隊OB有志が中心となりOBの統合組織たる「つばさ会」の下で、従来の個人的な活動を組織化し、在日米軍を激励、士気を鼓舞し、日米両軍の相互信頼の深化を図り、延いては米国民の我が国に対する信頼感の向上を願つて、現役諸君を強力にバックアップしていくというのが日米エアフォース友好協会設立の趣旨であります。

發起人一同

平成八年五月